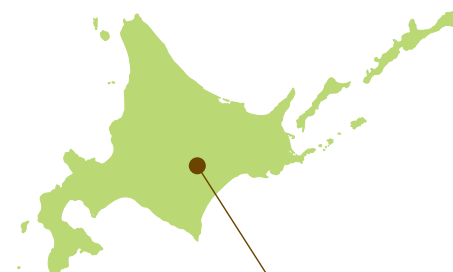


# 有限会社十勝しんむら牧場

※2017年3月現在

代表者名	新村 浩隆	資本金	9百万円
設立年	2000年6月1日	売上高	230百万円(2016年6月期)
事業内容	生産(生乳)、消費者直売、加工・製造	経営規模	採草放牧地70ha、加工施設230㎡、直売所99㎡、経産牛95頭、その他(育成牛55頭)
従事者数	20人(うち女性17人。女性内訳:役員2人、一般職6人、常勤パート9人)		
女性活躍支援	[女性に配慮して取組んだ環境整備] 施設設備関係(屋内トイレ・シャワーの設置)、重労働等の業務改善		



北海道上士幌町

## 経営概況

北海道上士幌町にある(有)十勝しんむら牧場は、道内でも少なくなった放牧による酪農業と、自社牧場で生産された生乳を原料に、各種乳製品や菓子の製造を行っている法人である。1933年に牧場の初代代表が富山県より入植し、乳牛を導入したのは1937年のこと。入植から60年近い時を経た1994年、4代目で現代表の新村浩隆氏が、従来の繋ぎ飼いから放牧に転換した酪農を開始した。

ホルスタイン95頭、ジャージー10頭が生み出す新鮮な生乳は、70haの放牧地に隣接する自

社工場で様々なフレーバーのミルクジャムやクロテッドクリーム等の乳製品に加工されている。商品は牧場隣接のショップや帯広駅内にある直営カフェで販売されているほか、十勝地域の商業施設や東京都内等のセレクトショップの店頭にも並び、他社ブランドのOEM商品としての製造・出荷も行うなど、特長ある商品への引き合いは強い。

現在生産される生乳の3~4割が自社加工用、残りがJA出荷されているが、いずれ全てを自社加工したいという目標を持っている。

## 1. 放牧酪農経営と多彩な加工品製造への方向性

十勝しんむら牧場は、「食べる人のための農業を実践し、次世代に継承し続ける企業」を経営理念に掲げ、輸入飼料や化石燃料への依存度が少ない放牧酪農を実践している。放牧により健康に育った牛が育む“生乳”を原料にした、加工品の直接販売を経営の柱としている。

近隣にはメガファームと呼ばれるような巨大な施設がいくつも建設されていく中、放牧地は科学的な分析に基づき牧草が強く元気に育つ土壤改良



を施すなど、環境負荷の少ない持続的な経営を実践している。加工品を製造する際は初期投資を抑えた形で進めていくなど、家族経営の牧場が原点となっている。

この経営を支えるのが、代表の妻で取締役を務める恵理氏である。恵理氏は家政科卒業し、食品関係の知識に加え、元・ミス十勝として全国各地を巡った経験から観光やツーリズム等の意義への認識・知見を得てきた。このことが、旧来の酪農経営から現在の加工・販売を含めた多彩な経営へ変化したことに大きな影響を及ぼしている。

また研究所勤務歴も有する恵理氏がこれまで築き上げてきた人脈が、特色ある新商品の開発を支えている。

放牧酪農では季節によって飼料が変わるため、生乳の成分が微妙に変化する。そのため生乳加工では、季節によって作り方が微妙に変わり、マニュアル化が難しい。安定した品質に上げるためにも、細かな違いへの気づきや目利きの力、黙々と取り組む必要のある清掃・組み立て作業等に、恵理氏と女性従業員の力が発揮されている。

この結果、女性社員自ら手をかけて製造加工し梱包まで関わった商品が、TVや雑誌に度々取り上げられるようになっており、主力商品のミルクジャムを中心に売上げが順調に伸長し（2015年度7,600万円→2016年度2億3,000万円）、経営の柱となっている。

## 2. 女性のキャリア形成

加工・販売部門のリーダーは全て女性が担っており、重要な戦力として実績を積み重ねている。優秀なパート社員や学生アルバイトを正社員として登用した実績もある。日常的な従業員の評価については、日々の業務で達成できた成果を、その都度現場で丁寧に伝えるような努力・工夫をしている。

販売部門を担当している恵理氏の妹は元金融機関勤務（窓口担当）の経歴を接客業務に生かしており、また、彼女の地元の友人繋がりですべてパート社員を雇用するなど、経営の一翼を担っている。航空会社（キャビンアテンダント、グランドスタッフ）等接客業勤務の経歴を持つ語学堪能なスタッフが、国内外からの顧客対応に能力を発揮している。このような多様な経歴を持つ女性によって支えられ、隣接ショップや直営カフェ、エスタ帯広店の運営が成り立っている。

## 3. 女性が働きやすい環境の整備

販売・加工部門を支える子育て世代のパート社員は、最大週3日程度の出勤でシフトを組む。ライフステージに応じた、無理のない形での勤務体制が実現している。

また社員は“自社製品を食べ放題”という、ユニークな制度を導入している。この制度によって、商品の新しい使用用途やフレーバー等のアイデアが出やすくなり、新商品の開発に繋がっている。

### 審査委員の声

十勝しんむら牧場は、メガファームと呼ばれる巨大酪農企業が多い十勝地域にあって、4代目の新村浩隆社長が土づくりと放牧など持続的な生産システムにこだわる酪農経営が特徴だ。さらに、ミルクジャムやクロテッドクリームなど加工食品の開発、牧場内レストランや帯広駅内のアンテナショップの展開による付加価値を高めたビジネスでは、食品関係の研究所勤務経験があり、さらに元ミス十勝として多くの観光イベントを経験した経営者の妻のリーダーシップも目立ち、商品開発や加工の現場などで他の女性スタッフの活躍を引き出している。